



桂川っ子

VOL.17



子ども会主催「リーダーキャンプ」に参加して

桂川町教育委員会
教育長 佐谷 千香子

参加した子どもの感想文を紹介し
ます。

「二日間の子ども会のリーダー
キャンプに参加しました。仲良しの
友達一人と近所の人一人、別のクラ
スの人一人と同じ部屋でした。同じ
クラスであつても日頃はあまり話を
しなかったのですが、この時はたく
さんしゃべりました。肝試しに、ボ
ウリングに輪投げ、部屋でじゃんけ
んなど、いろいろしましたが、私が
一番心に残ったのは料理です。まき
を割り、火をつけて、火の番をする
のがとても楽しかった。けど、新聞
紙がしけっいて、火をつけるのに
とても苦労しました。——中略——私
がこのリーダーキャンプで学んだこ
とは自分で作る料理の楽しさ、テレ
ビがなくても楽しかったことと、み
んなと協力しないと次に進まないこ

とど、たくましさです。これからも
生活に生かしていきたいです。」

私は、感想文や子どもたちの様子
を見て、次のようなことを思いました。

- ① 子どもたちは受け身ではなく、主
体的にやればできるということ。
- ② 一度火起こしなど体験すれば、上
達が大変早いこと。
- ③ ナイフの使い方などやれば上手で
あること。
- ④ テレビのない世界ではそれなりに
楽しみを見つけることが出来る
こと。など等・・・

皆さんは、この文章を読まれて、
どんな感想をお持ちでしょうか？

最後に、こういう行事には、大勢
の大人の方たちが子どもの健全育成
のために、休日返上で関わってくれ
ています。

そのことに、子どもたちは「気づ
き」「感謝する」心を培ってほしい
と願っています。

社会性を育て、規範意識を高める

ー桂川中学校校長 山本 和生ー

10年程前から、学校では「小1プロ
ブレム」といわれる子どもたちの実態
が話題となるようになりました。「友だ
ちと遊べない。孤立をしている。」など
非社会的な子どもと、「すぐに怒り出す。
泣き出したら止まらない。」などの感情
のコントロールを不得意とする子ども
たちです。また、「指示が通らない。集
団としてまとまらない」など、子ども
の集団としての力も失われています。

これらは、新しい教育問題として、
学校に現れています。その背景には、
子ども同士の結びつきの弱さや、人づ
きあいが苦手で情緒不安定な子や、我
慢が苦手な子どもの増加という「社会
性」の低下があげられます。そもそも
社会性は、生まれながらにそなわって
いるものではなく、生まれた後に自然
に学んできたものでした。それは、兄
弟が大勢いたり、地域での人間関係も
密接にあつたり、祖父母も親戚も身近
にいたからです。

さらに地域では、子どもたちが大勢
いて、集団で遊ぶ機会もたくさんあり、
人と一緒に何かをすることは心地よい
ことだという体験が、子どもたちに人
とのかかわりを大切にする、社会性を
学ばせてきたわけです。

しかし現代では、少子化、核家族化、
コミュニティの崩壊、遊びの変化な
どから、社会性を自然に身につける機
会がなくなってきました。そのため、
集団に入ること、それはそのような社
会的体験のないものにとつては、苦痛
の場に入ることと同じことなのです。

桂川中学校では、これまでも紹介し
てきたように、社会性を育て、規範意
識を高めていくこうとしています。例え
ば「あいさつ」は、その実践行動の一つ
です。笑顔で「おはよう」を声をかけたら、
笑顔で「おはよう」と返ってくる、心地
よい体験として行っています。



▲ 桂川小学校でのあいさつ運動